

4日 金曜

エレミヤ

27:12 ユダの王ゼデキヤにも、私はこのことばのとおりに語って言った。「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ。

27:13 どうして、あなたとあなたの民は、バビロンの王に仕えない国について主が語られたように、剣とききんと疫病で死んでよかるうか。

27:14 『バビロンの王に仕えることはい。』とあなたがたに語る預言者たちのことばに聞くな。彼らはあなたがたに偽りを預言しているからだ。」

27:15 「わたしは彼らを遣わさなかったのに、主の御告げ。彼らは、わたしの名によって偽りを預言している。それでわたしはあなたがたを追い散らし、あなたがたも、あなたがたに預言している預言者たちも滅びるようにする。」

27:16 私はまた、祭司たちとこのすべての民に語って言った。「主はこう仰せられた。『見よ。主の宮の器は、今すみやかにバビロンから持ち帰られる。』と言って、あなたがたに預言しているあなたがたの預言者のことばに聞いてはならない。彼らはあなたがたに、偽りを預言しているからだ。

27:17 彼らに聞くな。バビロンの王に仕えて生きよ。どうして、この町が廃墟となってよかるうか。

27:18 もし彼らが預言者であり、もし彼らに主のことばがあるのなら、彼らは、主の宮や、ユダの王の家や、エルサレムに残されている器がバビロンに持って行かれないよう、万軍の主にとりなしの祈りをするはずだ。



27:19 まことに万軍の主は、宮の柱や、海や、車輪つきの台や、そのほかのこの町に残されている器について、こう仰せられる。

27:20 ・・これらの物は、バビロンの王ネブカデネザルがエホヤキムの子、ユダの王エコヌヤ、およびユダとエルサレムのすべてのおもだった人々をエルサレムからバビロンへ引いて行ったときに、携えて行かなかったものである。・・

27:21 まことに、イスラエルの神、万軍の主は、主の宮とユダの王の家とエルサレムとに残された器について、こう仰せられる。

27:22 『それらはバビロンに運ばれて、わたしがそれを顧みる日まで、そこにある。主の御告げ。主の御告げ。主の御告げ。主の御告げ。それらを携え上り、この所に帰らせる。』」

「バビロンの王に仕えない」というのは、信仰深い態度のように思えるかもしれませんが、それを勧める預言者たちは、主のみ頼ってのことではなく、エジプトに頼っていれば希望があると判断なのです。

このように自分の考えに頼るときに、まるで信仰から出ているかのような理由付けをすることがあるので、私たちも注意しなくてはなりません。

「主の宮の器」も同じです。主に聞くのではなく、バビロン王の仕えないため後付の理由にしか過ぎません。むしろ主は「…わたしは、それらを携え上り、この所に帰らせる。」と言っておられます。

自分の主張を、信仰を装って理由付けしないように注意しましょう。また、そのような主張に惑わされないように気を付けましょう。そのために常日ごろから、主の御心を聞いて従い、聞き分けられるようにしておきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

